

# 2012年3月期 決算説明会

2012年5月10日

キョーリン製薬ホールディングス株式会社  
代表取締役社長 山下 正弘



■2012年3月期(連結) 決算の概況

■2012年度の取り組み

中期経営計画「HOPE100－ステージ1－」の進捗状況

■2012年3月期(連結) 業績予想と配当

■研究開発パイプラインの状況

2011年度の進捗状況と2012年度の取り組み

# 2012年3月期(連結) 決算の概況

# 2012年3月期（連結）決算の概観

（単位：億円）

	11年3月期 実績	12年3月期 実績	対前年 増減	前年同期比 （%）	対予想 増減
売上高	1,041	1,032	△9	0.8%減	△19
営業利益	164	145	△19	12.0%減	△4
経常利益	171	153	△18	10.7%減	△3
当期純利益	109	92	△17	15.5%減	△9

# セグメントの売上高の増減(連結)

(単位:億円)

			11年3月期 実績	12年3月期 実績	対前年 増減	前年同期比 (%)	対予想 増減
売上高 合計			1,041	1,032	△9	0.8%減	△19
医薬品事業	新医薬品		1,013	1,007	△6	0.6%減	△15
	国内		880	880	△0	0.0%減	△3
			853	860	+7	0.8%増	△2
	海外		27	20	△7	26.4%減	△1
	後発医薬品		89	87	△2	2.4%減	△10
一般用医薬品他		44	40	△4	8.9%減	△2	
ヘルスケア(スキンケア)事業			28	26	△2	7.9%減	△2

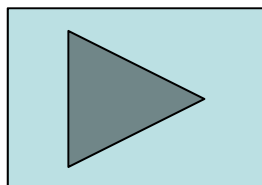
差異のポイント	対前年増減	増減のポイント	対予想増減	増減のポイント
国内新医薬品	+7	・キプレス、ウリトスは伸長 ・震災により主力製品の売上は全体として微増にとどまった	△2	・ペンタサ、ウリトスの売上が予想を下回った
海外新医薬品	△7	・ガチフロキサシンの売上減	△1	・ガチフロキサシンの売上が予想を下回った
後発医薬品	△2	・震災の影響による販社の売上減、他社受託品の売上減	△10	・重点品、追補品の売上が予想を下回った
一般用医薬品他	△4	・アレルギー用薬の売上減	△2	・アレルギー用薬の売上が予想を下回った
ヘルスケア事業	△2	・ドクタープログラムの売上減少	△2	・ドクタープログラムの売上が予想を下回った

# 損益の概要(連結)

(単位:億円)

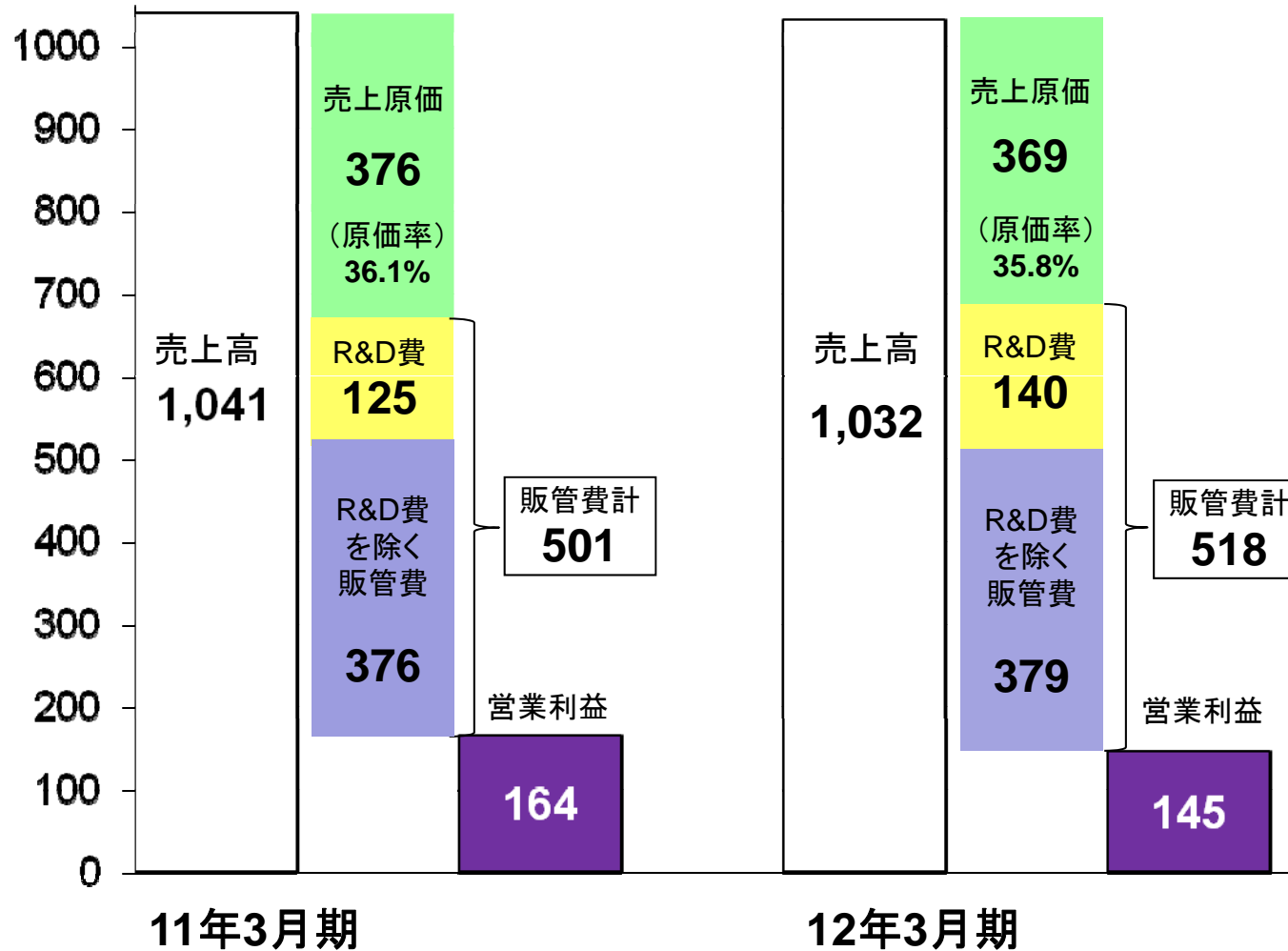
	11年3月期 実績	12年3月期 実績	対前年 増減	前年同期比 (%)	対予想 増減
売上高	1,041	1,032	△9	0.8%減	△19
売上原価	376	369	△7	1.7%減	—
販売費及び一般管理費	501	518	+17	3.5%増	—
R&D費	125	140	+15	11.8%増	△2
R&D費を除く販管費	376	379	+3	0.8%増	—
営業利益	164	145	△19	12.0%減	△4
経常利益	171	153	△18	10.7%減	△3
当期純利益	109	92	△17	15.5%減	△9

《対前年のポイント》



対予想のポイント	対予想増減	増減のポイント
売上高	△19	・新医薬品△3億円、後発医薬品△10億円、一般用医薬品他△2、ヘルスケア△2億円
営業利益	△4	・販管費の圧縮に努め、営業利益の減少を抑制(R&D費:対予想△2億円)
当期純利益	△9	繰延税金資産の取り崩し等による法人税等調整額の増加

(億円)



ポイント①

- ◇売上高は9億円減少
- ◇売上原価は7億円減少
  - ・原価率の低い自社製品の売上増
  - ・稼働率の向上、製造費の減少等
- ◇売上総利益は2億円減少

ポイント②

- ◇販管費は17億円増加
  - ・R&D費は15億円増加 (開発パイプラインの進展)
- ◆営業利益は19億円減少



# 主力製品の売上増減

(単位:億円)

	11年3月期 実績	12年3月期 実績	対前年 増減	前年同期比 (%)	対予想 増減
キプレス	345	368	+23	6.5%増	+1
ムコダイン	213	215	+2	0.8%増	+2
ペンタサ	194	180	△14	7.4%減	△6
ウリトス	55	63	+8	15.1%増	△3
ガチフロキサシン(海外)	22	17	△5	25.6%減	△0

【参考】医療機関向け売上の増減率(薬価ベース)

キプレス	11.9%増
ムコダイン	3.1%増
ペンタサ	5.7%減
ウリトス	22.9%増

(※ © 2012 IMS ジャパン株式会社 出典:JPM,2011年4月-2012年3月をもとに作成 無断転載禁止)



## ■2012年度の取り組み

中期経営計画「HOPE100－ステージ1－」の進捗状況

## マルチ・コア戦略(MC戦略)

— 医薬品事業を中核とするヘルスケア事業の多核化 —

### 医薬品事業

ファーマ・コンプレックス・モデル

(PCモデル)



複合的な事業展開

(新薬群、先発品群、後発品群)

### ヘルスケア事業

既存事業の育成と新規事業の拡充と育成

**2015年度目標**  
(2016年3月期)

**売上高1,400億円 営業利益200億円**

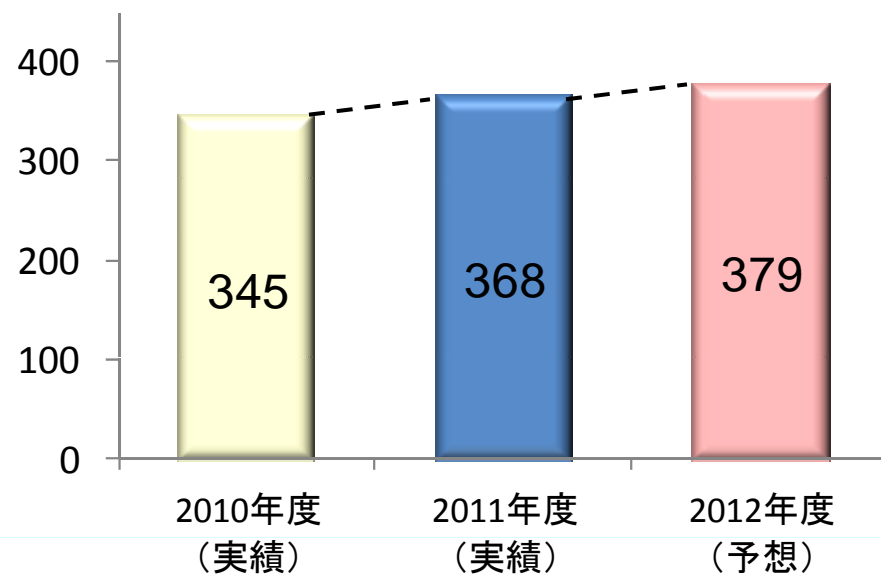
- **新薬群** : ◇主要製品の普及の最大化を図る(キプレス、ウリトス)  
◇開発パイプラインの強化及び開発促進を目指す
  
- **先発品群** : ◇LCMによる製品価値の向上とライフサイクルの延長を図る  
(ムコダイン、ペンタサ)
  
- **後発品群** : ◇国内外のアライアンス推進により原価低減、品揃えを図る  
◇グループ内での連携強化による特色あるジェネリック事業を推進する

※LCM: ライフサイクルマネジメントの略

# 【新薬群】 キプレス

## キプレス 【気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤】

売上高(単位:億円)



■2015年度の目標値:400億円以上

### ■2012年度の取り組み

●アレルギー性鼻炎(通年性・季節性)のベース薬としてのポジショニング確立と新規処方獲得の拡大

●成人、小児喘息患者さんへの更なる処方促進  
細粒からチュアブル錠5mg、さらに錠剤10mgへ

●LT拮抗剤市場におけるシェアの拡大

31.3%(2011年3月MAT) ⇒ 33.3%(2012年3月MAT)

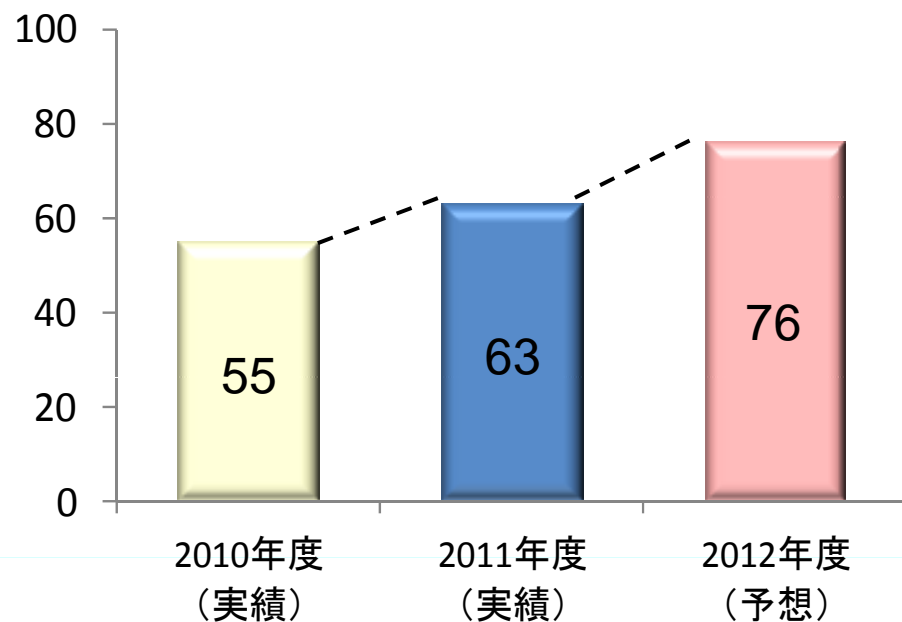
(出典:IMSジャパン株式会社 JPM, 2011年3月/2012年3月MAT無断転載禁止)

※薬価改定率7.9%

# 【新薬群】 ウリトス

## ウリトス 【過活動膀胱治療剤】

売上高(単位:億円)



■2015年度の目標値:100億円

### ■2012年度の取り組み

#### ●OAB市場でのウリトスシェアの拡大

9.3%(2011年3月MAT) ⇒ 10.7%(2012年3月MAT)

製品差別化によるファーストチョイスでの処方化

#### ●潜在市場の掘り起こし

##### OAB市場:

600億円(2011年3月MAT) ⇒ 640億円(2012年3月MAT)

##### ミダフィナシンのシェア:

19.3%(2011年3月MAT) ⇒ 21.1%(2012年3月MAT)

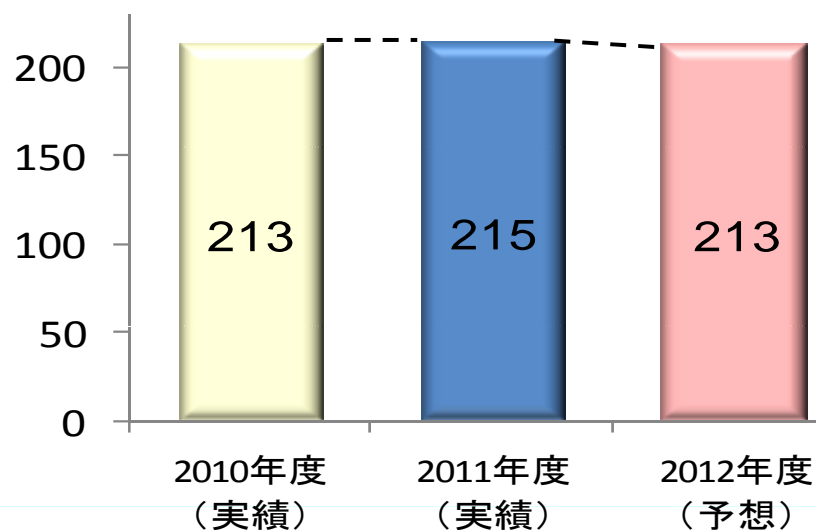
(出典:IMSジャパン株式会社 JPM, 2011年3月/2012年3月MAT無断転載禁止)

※薬価改定率0.5%

# 【先発品群】 ムコサイン

## ムコサイン 【気道粘液調整・粘膜正常化剤】

売上高(単位:億円)



■2015年度の目標値:240億円

### ■2012年度の取り組み

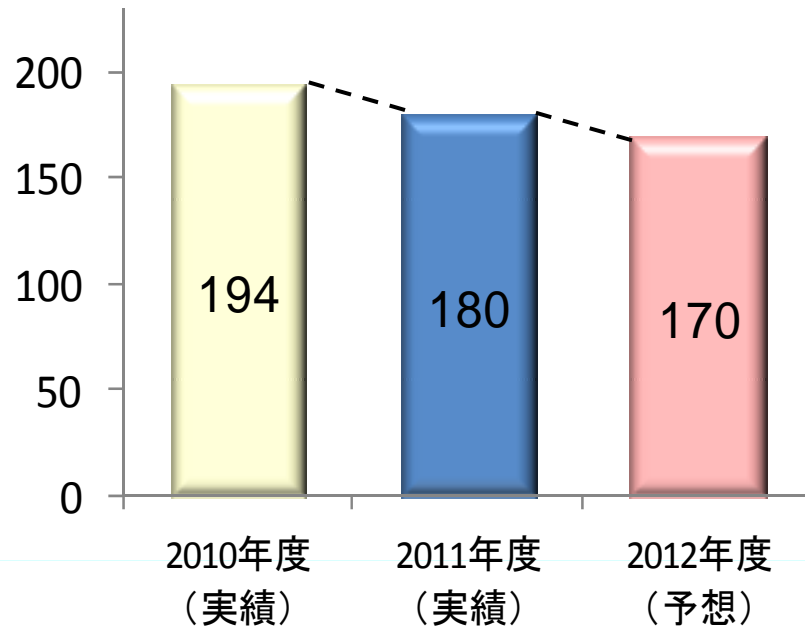
- 「DS50%」の普及の最大化  
幅広い年齢層での処方
- エビデンスデータ活用による慢性疾患での処方拡大  
気管支喘息、慢性気管支炎、慢性副鼻腔炎
- 去痰剤市場におけるシェアの拡大  
47.9%(2011年3月MAT) ⇒ 48.8%(2012年3月MAT)  
(出典:IMSジャパン株式会社 JPM, 2011年3月/2012年3月MAT無断転載禁止)

※薬価改定率6.4%

# 【先発品群】 ペンタサ

## ペンタサ 【潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤】

売上高(単位:億円)



■2015年度の目標値:190億円

### ■2012年度の取り組み

- UCでの基準処方の定着化(活動期の4g処方)
- 新用法(1日1回投与)による処方の最大化(UC寛解期)
- メサラジン製剤の市場は12.5%拡大

280億円(2011年3月MAT) ⇒ 310億円(2012年3月MAT)

ペンタサシェア:

75.1%(2011年3月MAT) ⇒ 63.0%(2012年3月MAT)

(出典:IMSジャパン株式会社 JPM, 2011年3月/2012年3月MAT無断転載禁止)

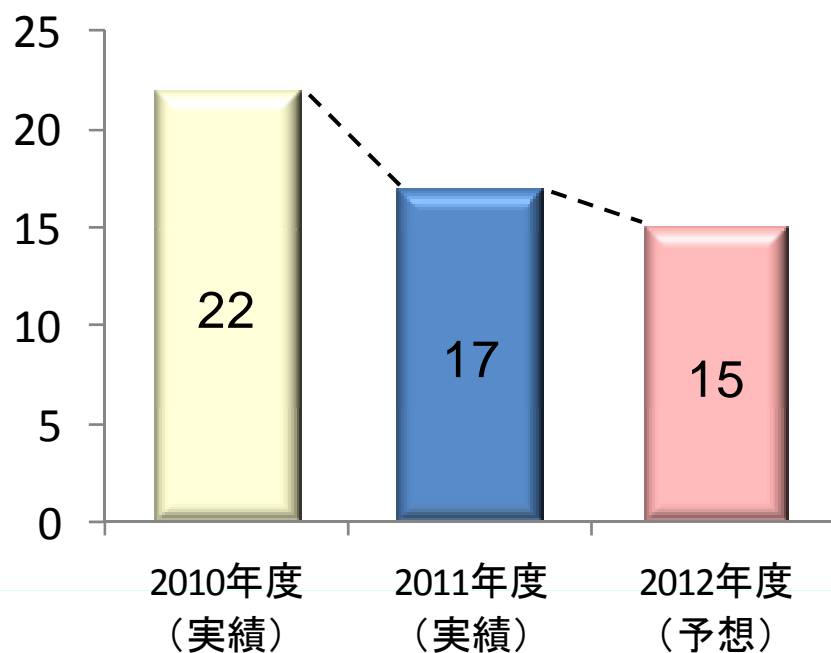
- 新剤型(坐薬)の開発推進

※ UC:潰瘍性大腸炎の略

※薬価改定率5.5%

## ガチフロキサシン 【抗菌点眼剤】

売上高(単位:億円)



### ■2012年度の取り組み

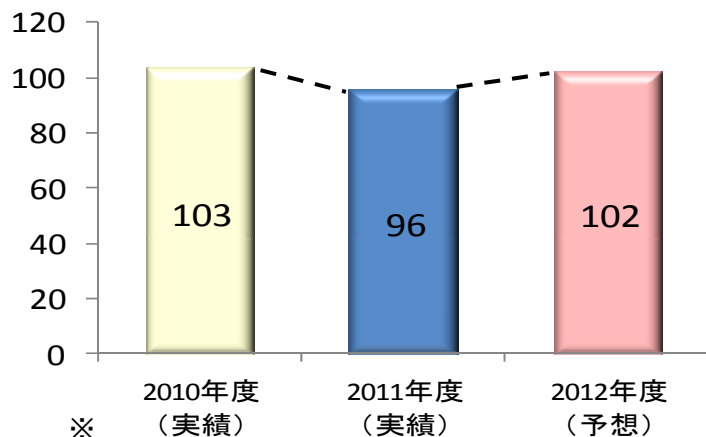
- ガチフロキサシン点眼液の展開 (アラガン社)  
ザイマー及びザイマキシド(高濃度製剤)の現地売上:  
2010年12月期 \$99.8MM ⇒ 2011年12月期 \$92.6MM



# 【後発医薬品事業】キョーリン リメディオの状況

(単位:億円)

## 売上高

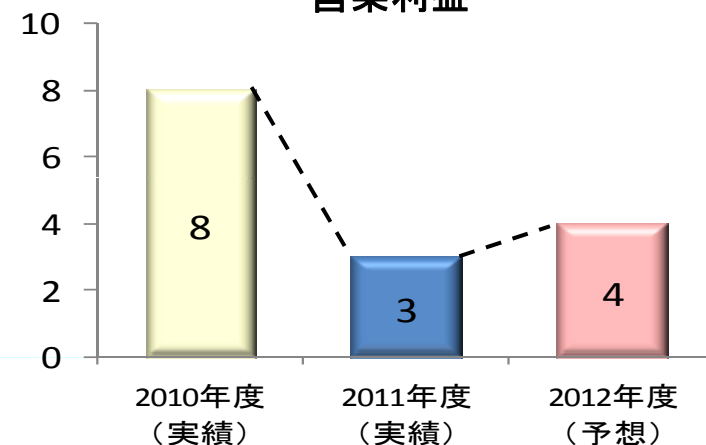


※

※卸店販売ルートの新林製薬㈱への統合に伴い、初期在庫分として約6億円を売上計上しています

(単位:億円)

## 営業利益



## 2012年度の取り組み

### 国内外アライアンスの推進

- ・自社開発及び受託の推進(新たな供給先の確保)

### ■売上高

#### ●重点品の売上拡大

- ・アムロジピン、ドネペジル等

#### ●大型追補品の上市と目標の完達

- ・入眠剤、高血圧治療剤等

### ■利益

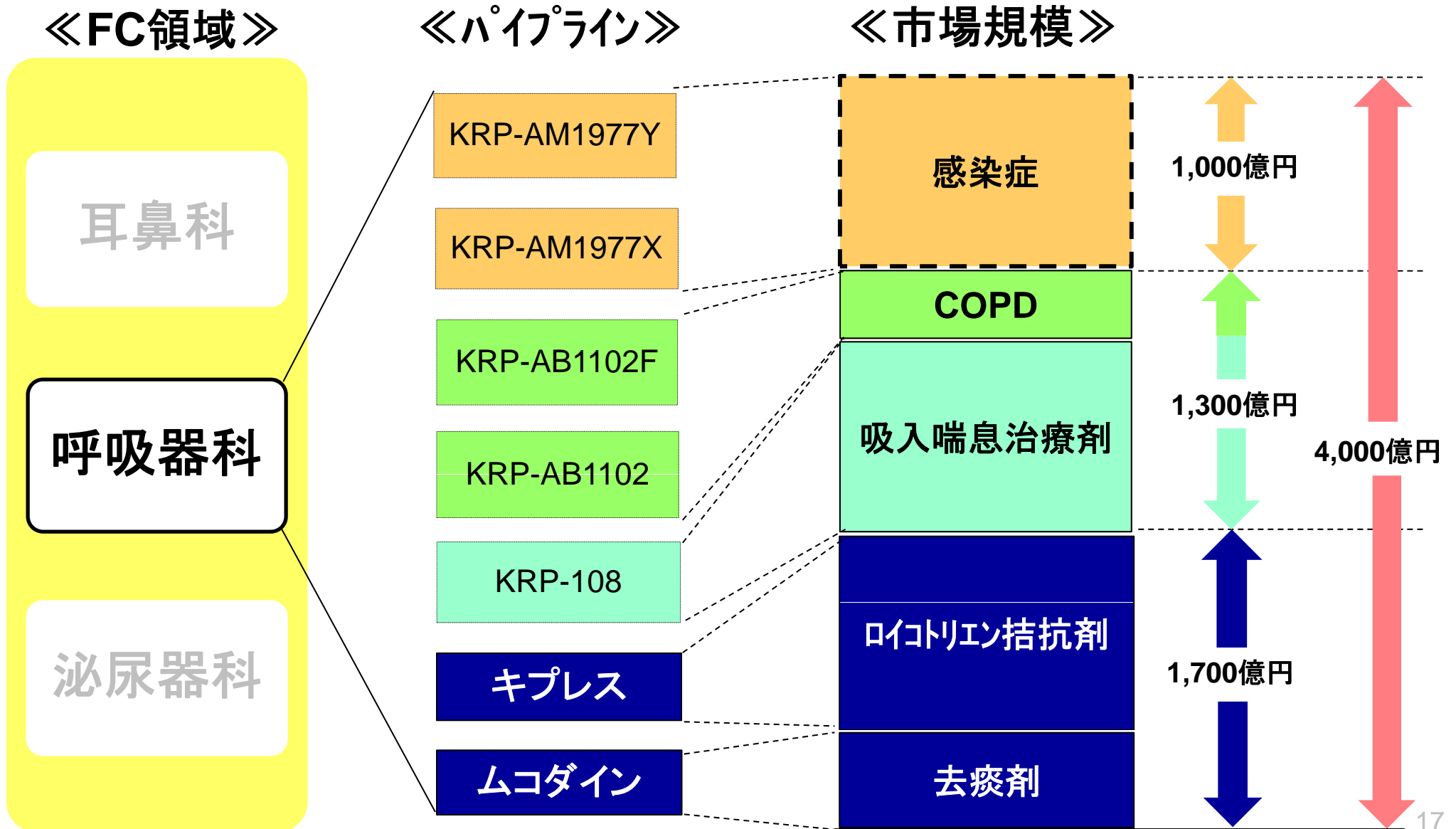
#### ●原価率の低減

- ・自社開発品の確実な承認取得と上市(受託の推進)
- ・高利益製品の売上増加による構成比率の是正
- ・主原料の購入価格の低減を目指す

#### ●販売費及び一般管理費

- ・持続成長に向けた投資の継続

# 呼吸器領域における製品と市場状況



# ヘルスケア事業（スキンケア＋一般用医薬品他）

## 中期経営計画「HOPE100－ステージ1－」

## ヘルスケア事業の売上高

### ■スキンケア事業

収益事業化と成長促進（含むアジア市場展開）

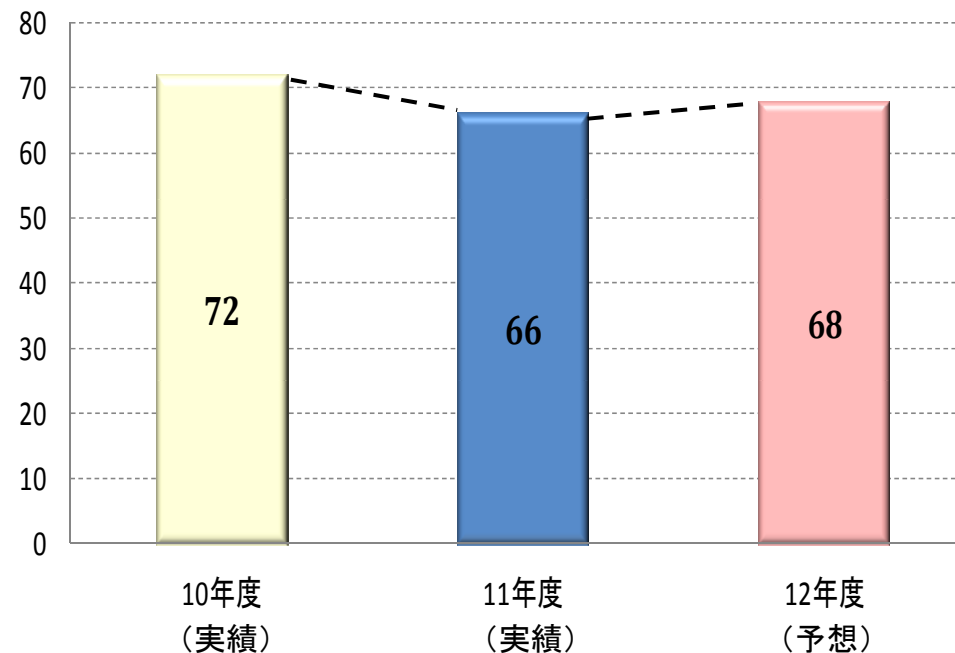
### ■ミルトン事業他

ミルトンブランドを活用した新たな事業展開

### ■新規事業

企業理念を具現化する新規事業の拡充と育成を目指す  
（環境衛生事業他）

（億円）

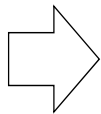


# 新規製品：環境表面除菌洗淨剤

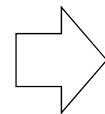
- **製品の特徴**：
  - 広い抗菌スペクトラムと高い除菌力
  - ワンステップ(一度の拭き取り)で除菌と洗淨が同時にできる
  - 効力が色で確認できる
- **用途**：
  - 医療機関、介護施設を始めとした衛生管理の必要な様々な場所の環境表面の除菌洗淨
- **販売**：
  - キョーリンメディカルサプライ(株)、杏林製薬(株)



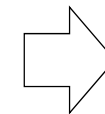
調製(水で溶解)



ワイプを容器にセット



調製液を含浸させる



ワイプを引き抜いて清拭使用

## 新規サプリメント素材としてクルクミンに注目

- [クルクミンとは]
- ・医療の分野で研究がすすめられるなど多様な作用が報告
  - ・課題は吸収されにくいこと

## 高吸収型クルクミンとして発売

吸収されにくい原末を特別な技術で粉碎・加工し高吸収を実現した「高吸収型クルクミン」を用いた製品として発売

- **製品の特徴**
  - 細粒化技術により、吸収性が飛躍的に向上(約27倍の高吸収)
  - 1粒に「高吸収型クルクミン」30mgを配合
  - 利便性を考え「グミ」と「カプセル」の2タイプを販売
  - お酒の飲む機会が多い方などの健康をサポート

- **販売** : 杏林製薬(株)の通信販売ルート

【参考 杏林製薬(株) 通信販売ホームページ】 <http://www.kyorin-onlineshop.com/>



**2013年3月期(連結)  
業績予想と配当**

# 2013年3月期 業績予想(連結)

(単位:億円)

	2012年3月期 実績	2013年3月期 予想	対前年 増減	前年同期比 (%)
売上高合計	1,032	1,047	+15	1.4%増
医薬品事業	1,007	1,020	+13	1.4%増
ヘルスケア事業	26	27	+1	3.8%増
営業利益	145	179	+34	24.0%増
経常利益	153	185	+32	21.4%増
当期純利益	92	118	+26	28.5%増

《対通期予想のポイント》	対実績増減	増減のポイント
売上高合計	+15	
国内新医薬品	+7	新薬群(キプレス・ウリツ)の売上増
海外新医薬品	△0	—
後発医薬品	+8	重点商品の売上拡大、大型追補品の発売
一般用医薬品他	△2	—
ヘルスケア(スキンケア)	+1	—
営業利益	+34	R&D費の減少(29億円)による販管費の減少

【参考】《対前年同期のポイント》

- ・売上原価率は前年とほぼ横ばい
- ・(R&D費を除く)販管費比率は前年同期比ほぼ横ばい

# 2013年3月期 主力製品及び後発品事業の売上予想

(単位:億円)

	2012年3月期 実績	2013年3月期 予想	対前年 増減	前年同期比(%)
キプレス	368	379	+11	3.1%増
ムコダイン	215	213	△2	0.4%減
ペンタサ	180	170	△10	5.1%減
ウリトス	63	76	+13	20.4%増
ガチフロキサシン(海外)	17	15	△2	4.7%減
後発品事業	87	95	+8	10.0%増



# 株主還元について

## 基本方針

成長のための投資、事業継続のための投資、株主還元をバランスよく実施し、経営基盤の強化を図ります。株主還元は配当性向30%を目処に実施します。

## 当期純利益の推移

	2011年3月期 (実績)	2012年3月期 (予想)	2012年3月期 (実績)	2013年3月期 (予想)
当期純利益	109億円	101億円	92億円	118億円

## 配当の推移

	2011年3月期 (実績)	2012年3月期 (予想)	2012年3月期 ※	2013年3月期 (予想)
1株当たり配当金	45.00円	45.00円	45.00円	50.00円
連結配当性向	30.8%	33.3%	36.4%	31.7%

※5月25日に開催される取締役会で決定する予定です

## ■将来見通しに関する注意事項

本資料に記載されている業績予想等は、現時点で入手可能な情報により判断した予想であり、将来の業績に影響を与える不確実な要因やリスクが含まれています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。